

全腎協の視察に

全国に先駆けて、通院介護事業をしているとして、その実態調査のため全腎協の事務局からフレッシュ・ウーマンの西井みどりさんが「さわやか」を訪ねられました。客観的にどう写ったのか、西井さんに感想を聞いてみました。

「さわやか」のヒケツは？

全腎協事務局 西井 みどり

東京から飛行機と電車を乗りつぎ約4時間、「さわやか」のある北九州に到着しました。私の任務は「通院介護マニユアル化」、しかし、実際どのように送迎が行われているのか、百聞は一見に如かずというわけで、11月10・11日の二日間研修に伺いました。さて、送迎に同行させていただいた印象ですが、予想通り(?)地道な活動でした。送迎ボランティアさんと利用会員さんの1対1で、送迎時間は30分とかかりません。

透析患者さんにとって通院はとても重要ですが、送迎活動自体は決してなやかでないことを実感しました。大勢が集まって一つの行動を作り上げるボランティア活動もあるんですが、利用者の生活を支える多くのボランティア活動は、おそらく地道で継続的なものです。「さわやか」はまさに後者だと思います。送迎の合い間に、江頭会長や山田コーディネーターにお聞きした話からも、このことを考えさせられました。ボランティアさんは皆さん善意の方ばかりですが、長続きしないという話も聞いたことがあります。ちょっとした思いやりが安心に、感謝の音がやり甲斐に、ねぎらいの言葉が継続に、そうしたつながりができるときに息の長い活動が生まれる気がします。そのつながりを「さわやか」は大切にされているなあ……。

員さん、両方をつなぐコーディネーターや役員さん、通院事業から皆んなのつながりができることを知った研修でした。余談ですが、日通市場など小倉の町も堪能しました。人情に厚いという福岡の土地柄に触れながら、土地柄に頼らない、各地域に合った通院事業を探っていくかねば、と思いを新たにしました。最後になりましたが、研修中、江頭会長をはじめお世話になったみなさま、本当にありがとうございました。

透析室見学について

今しばらくお待ち下さい

先日のボランティア研修交流会の中で、多くのご意見やご要望がいただきました。その中で、「私たちは透析患者さんを送迎しているが、一度でいいから透析治療をしている治療現場を見たい」との要望がいただきました。日頃の送迎の中で、透析終了後、血圧が下がった、とか意識不明になったとか、きつくて歩けないなどの場面に遭遇します。でも、どうしてそんな状態になるのか、理解ができません、とボランティアさんが言われます。透析治療は、絶対無菌の手術室ほどの管理は厳しくありませんが、しかし、手術室に準ずるほど厳しい条件下にあります。外部の人がICUに入室するのと同じくらいの条件が要求されます。透析患者は貧血で抵抗力が弱いので、風邪をはじめウイルスには注意が必須になります。以上のような理由で大人数で見学することは、まず不可能です。2〜3名ずつ、分けず、見学することになると思っています。事務局の方で、病院に相談して、どのような方法で見学会をするか検討して、後日お知らせいたします。

年末年始

休暇のお知らせ

- 12月26日(金) 御用納め
- 12月27日(土) 冬季休暇
- 1月4日(日) 休暇終了
- 1月5日(月) 御用始め

12月27日から1月4日までは事務局は閉まっています。送迎は、お正月も返上して頑張っていただけのボランティアさんがおられます。その方たちは、送迎をしていただきます。利用者の皆様には事前に送迎の日時をお知らせしますので、メモなど取っておいて下さい。事務局に問い合わせでも、連絡はとれません。ボランティアさんで、急用などで、送迎が出来なくなつた時には、利用者の自宅または病院に「行けない」旨の連絡をお願いします。

一年間、苦勞様でした

「さわやか」会長 江頭 博 幸

透析患者が自分たちの力で作った通院介護組織は、全国の透析患者をはじめ、透析医、マスコミなどの注目の的になりました。華やかな脚光を浴びると同時に、実際の送迎も、毎月、実績をのばし、一年目の九月には、月「百回」をこす実績をあげました。ボランティア研修交流会も三回ほど開きましたが、まあ好評で、多くのボランティアの皆さんの賛同が得られたと思っています。五月には福祉車両の寄贈もあり、この一年、目まぐるしく過ぎたような気がします。いずれにしても、利用者の皆さんからは、大変喜ばれていることは間違いありません。ボランティアの皆さんも、平常心で送迎活動が出来るところになられたと思います。来年は、「さわやか」も揺れ動いた今年から脱皮して安定した送迎が出来るよう努力してゆく所存です。今年一年、大変ご苦勞様でした。「さわやか」役員一同、事務局から厚くお礼申し上げます